

山内流の起源とその推移について

可 見 雄 二 朗

地形的に、大分県臼杵市はリヤス式海岸にあり、元来水泳に適した土地である。古くは、大友時代より水泳術があつた模様であるが、特に稲葉藩主の奨励の下に、元文年間（一七三六年〜一七四〇年）は水泳がかなり盛んであつた。明和八年（一七七一年）に藩主の稲葉弘道公時代には水馬術その他の水練技術が盛んで、藩主の前で泳ぐ御覧前という式泳が現在残っている点より考察しても、かなりの水術があつたと推察出来る。

このよい条件下に以下述べる山内流が種子をまかれ、花を咲かせ結実した次第である。

文政五年（一八二二年）に四国松山藩主で神伝流の祖である伊東祐根の門人である山内久馬勝重が諸国遍歴の途中臼杵に立寄つたのである。この山内久馬勝重先生こそ我々の開祖であり郷土の大恩人である。先生は水術に対してかなりの自信もあり達人としての名もとゞろいていた。当時臼杵藩の太夫である加納外記純也が迎え、私費により禄高百五十石の藩士稲川清記（当時三十九才）先生に教えをうけさせている。即ち山内久馬勝重先生を始祖としてこの稲川清記先生を鼻祖とする所以である。山内勝重の諸国遍歴後臨終の地は不明であり誠に残念である。稲川清記は天保十一年三月二十七日死亡、行年五十六才で墓地は、臼杵市大字福良字小河内に現存している。

稲川清記が教えをうけた時代は文政五年十月から翌春三月までとなつている。その場所は水術を秘術として人に知られぬ様に市内福良柚ノ木谷の溜池（現サントリーKK臼杵工場の裏手）でひそかに教えをうけ練習している。

その間、病に臥した事もあつたが苦節約半年の修業ののち遂に秘術をうけ免許を与えられている。こゝで神伝流と名乗らなかつたのは何故であらうか？それは山内久馬勝重という人は偉大な体軀の持主であり同時に自信力の強い人であつたので伊東祐根先生より伝授された技法に新機軸を出し、あえて神伝流を名乗らず勝重流（後の山内流）を名乗つた様である。扱稲川先生は、僅かの期間に免許皆伝を極めた事は相当の術泳者であつたと思われる。即ち大坪流水馬術もすでに修得していた訳であり游泳のうん奥を極めているのを伝えき、その後藩主の子弟が彼について教えを乞う者が続出した事をみても容易に首肯出来る。曰杵川河口の洲崎、諏訪間およそ三百三十米の場所をえらび游泳場として師範役となり教えはじめた。

稲葉藩主も大へん之を奨励して、その年々の游泳の最終の日における大演習会には特に仮屋を設営して藩主自ら出て観覧している。当時の演しものは、水神祭、御覽前、砲術、水書、潜水術、水馬術、やぐら飛、煙火打上、手足搦（ロープで手足を結び泳ぐ）具足脱着、水中宴会等であつた。これらは全く現在に殆んど続いて伝承されている。当時演習会の終りに游泳者が整列して洲崎（本陣）より諏訪（向陣）に大旗、小旗、刀、やり、銃等をもち泳ぎ渡る盛観なものである。（これは絵まき物により容易に推察出来る）現在大泳ぎとして実施されている。

嘉永六年（一八五三年）ごろ帰陣（向陣より本陣）の時には遊軍（徒手組）を先頭にして一同を汀に整列させ合図して一斉に本陣に向つて競泳させ、その優劣を決め、所謂武士の晴れの業にして尚武的壯觀を演出させた。天保十一年（一八四〇）に稲川清記先生は死没せられ二代目直記先生がその業を継ぎ師範役となり益々盛んに藩主の子弟でその門下生とならない者は殆んどない様になり斯の業が興り、慶応二年（一八六六年）頃の山内流游泳大会の状況を藩主に報告するために諏訪渡河絵巻物に詳かにして献じた尊い文献が残っている。然し明治維新の令が出ると漸く衰微のしるしが出はじめ、折も折稲川直記が明治五年（一八七二年）に曰杵より転出した関係で、殆んど廢絶の不幸に立ち至つた。そこで稲葉築器、長瀬五郎治、溝口晃彦外の有志の人々が、明治八、九年頃に水泳術の復興を計り、各人自身で子弟を勧誘して伝習に努めた。爾來、毎年尽力したものの容易に挽回出来ず明治二十年頃になり生徒は少くなり経費支出に最も困難を來たした。

明治二十五年、時の町長宇野治光^{外二}、三名の人々がこの菱徴したのを慨き経費補助の法を考え町の経営として規則を設け、教授細目を制定し、大いに生徒を募集しこの業の拡張を聞いた。当時女子の応募する者も出て来た。その募集には、医師緒方玄水の勧誘の力によつているといつても過言ではない。その後は男女生徒数は逐年に増加して常に四、五百であつた。この町管移管にともない山内流、稲川流、或は臼杵流と称えられていたが流名を一つに決定する必要があるが協議の結果、山内流臼杵伝習所と流名が決定された。当時は町長が所長となり卒業生試験課目も定められ、尋常科、高等科を置き今日に及んでいる。

(後年大正十二年山内流臼杵游泳所と改称) 以上起源について述べたので、その後の推移を見てみると、

明治二十五年第一回卒業生を出して(女子は明治三十四年)から毎年盛大に挙行されたが明治二十八年に伝染病のコレラが發生して止むなく閉鎖に及んでいる。

明治三十三年稲葉 次郎氏仲有志二十名が相談して臼杵游泳クラブ会を設立して伝習所の後援をしている。県立臼杵中學校(現臼杵高校)では創立以来毎年山内流游泳所の教師を招へいして水泳指導を行い特に明治三十六年九月に県下ではじめて水泳競技大会を行つてゐる。

明治三十五年伝染病コレラ流行により再度一時閉鎖する。

明治三十九年游泳練習所は教材配当表を作成し完成する。

明治四十年から数年間引き続き京都市武徳会主催游泳大会に参加している。

全年第一回水ヶ浦、大浜間往復四〇〇〇米の遠泳大会を山内流主催で行い、兩年毎年行つてきている。

明治四十四年西宮香櫛園海水浴場で公開演技を行つてゐる。

大正二年名稱を臼杵山内流と改称している。

全年八月東京にて公開し名声を得る。又時世の進展に伴い山内流そのものに備せず、各国の水泳を研究し、その合理的発達を必要とする時代でもあつた。従つて大正七 八年は専ら山内流游泳術の研究会をして、大正九年には他流諸泳法及び外国泳法

等を研究し大正十年には諸泳法等を加えた教授要目を、大正十一年にはその教授細目を制定し大いに革新をなした。
大正九年伝染病コレラが流行し再三游泳所を閉鎖している。

大正十二年以降は練習期間を四十日間から二十日間前後に短縮した。

大正十三年より昭和十七年迄教師が協力して県下最初の臼杵体育協会の第一回東九州水上競技大会を行い、会を重ねる事十八回にも及んでいる。正に競泳の発達の基礎作りを行い現在、古流と欧米泳法の関係が離れた点の警鐘にもなる。

大正十四年に至り百十余年間の歴史を有する洲崎游泳所を板知屋水ヶ浦に変更して入所生を小学校三年生以上に改定した。
大正十五年監督という名を総務と改め一人制に改める。

昭和三年に卒業試験委員を五名であつたのを尋常科五名、高等科五名合計十名に決定する。

昭和四年水ヶ浦、一尺屋間の遠泳（一万メートル）の遠泳会を挙行した。

全年山内流游泳綱領を制定し游泳所諸規則、規定等を一覧した帳簿にまとめる。

昭和五年五月第九回極東選手権競技大会及び全年十一月三日明治神宮鎮座十年祭の日本武道型奉納大会に参加し游泳術を公開し、全国的、世界的にその盛名をとどろかした。

同日同会場で岩倉流、小堀流、観海流、向井流、野島流、神伝流、水府流（太田流）の七流と共に日本游泳連盟を組織し発会式をあげた。

全年八月、臼杵体育協会は日本水上競技連盟に加盟を許された。こゝに水泳の発祥地を以つて任ずる臼杵水泳界は新、旧両道の活躍すべき組織が出来た。（然し臼杵体育協会は第二次大戦終結後に解散したので昭和二十五年日本水上連盟の加盟権を県体に譲渡した。）

昭和六年八月中旬、日本游泳連盟主催の水泳展覧会に山内流諸資料を出品する。

全年十月五日、日本游泳連盟主催第六回明治神宮体育大会日本游泳演武に山内流游士出場し大いに活躍した。

昭和七年八月十一日臼杵游泳所主催第一回日本游泳連盟九州予選游泳選手権大会を挙行し十一年迄五回に亘り実施した。八月には、臼杵山内流游泳所職員称号規定、表彰規定及び弔慰規定を制定した。更に水ヶ浦、津久見島間の往復遠泳大会（九、〇〇〇米）を挙行した。

全年九月九日、日本游泳連盟主催全国日本泳法演武大会に山内流在京の游士が出場した。

昭和十年八月下旬、東京三越主催日本游泳展覽会に山内流出品。

昭和十一年八月十五、六日、日本游泳連盟主催游泳競演会に山内流游士参加。更に八月十八日、山口県三田尻港でも游士出場公開す。

全年九月一日津久見島、無垢島間の沖（臼杵湾）に投錨の第四艦隊旗艦山城に高松宮御乗艦の舷側で山内流游士四十三名（男女）は游泳術の台寛を賜う。

昭和十二年八月津浦往復遠泳会（六千米）を実施する。

昭和十三年游泳所総務を三人制に改定した。

全年八月五日巖ヶ礁片道遠泳（四、三百米）を挙行する。台風の関係で予定の往復を片道に変更した。

昭和十五年八月十二日游泳大会の際、楠川清記先生百年祭及び諸先哲慰霊祭を行った。

全年八月二十四、五日日本游泳連盟主催紀元二千六百年奉祝檀原神宮奉納関西大会を大阪甲子園プールで開催し、游士七十四名（男女）が出場した。当日の参加は十二流で、神統流、小池流、水府流水戸派、水府流太田派、水任流、向井流、神伝流（津山、東京）観海流、山内流、岩倉流、野島流、小堀流であった。

昭和十七年八月十五日巖ヶ礁往復（八千六百米）を挙行した。その年八月二十九、三十日、神宮プールで日本游泳連盟主催游泳大会に游士出場。

昭和二十年、二十一年の二年間、閉鎖する。

昭和二十二年、有志教名が相寄り耐乏の資材を集め再開する。やがて町當局を動かし、町の正式な埒助の下に、軌道に乗る。たゞ砲術は戦時用具として没収され現在に至る。かつて立泳応用としての砲術は種子島銃を用い、長い間なじまれたものの致方なく、何んとかして再使用を念じている。

昭和二十三年、町営にするべく請願委員を定め、町當局に請願交渉をなす。

昭和二十四年、関係者の努力が実り名実ともに町営となる。

昭和二十五年市制施行に依り臼杵山内流游泳所市営に移管さる。諸規則一覽を制定。

同年八月四、五、六日神宮プールに於ける日本水泳連盟主催日米對抗競技大会に山内流在京游七出場公開す。

昭和二十六年游泳所副所長は教育長に改定す。

全年九月吳国体に出場。

昭和二十七年三月十三日大分県指定の無形文化財に決定。

昭和三十一年八月十九日奈良県天理プールに於ての日本水泳連盟主催第一回日本泳法大会に多数出場。爾年毎年本年（四十二年）に至るまでほとんど欠かさず出場している。

昭和三十二年副所長二名制に定め一名は教育長、一名は游泳教師とし任期三年と改定。

昭和三十四年六月四日臼杵山内流游泳所設置条例制、游泳所長は教育長、副所長は二名とし一名は教育課長、一名は游泳教師とした。

全年七月二十、二十一、二十二日、明治神宮プールでの日水連主催の日米對抗水泳大会に山内流より参加演技をした。

昭和三十五年八月十五日卒業式後総務四名を詮衡委員を作り准せん決定す。

全年九月二十七日熊本市プールの第十五回国体に参加。全年十一月十六日、稲川清記先生の手書「山内勝重流水術聞書」を清記先生の曾孫より発見した。

会年十二月六日砲術教授用短銃製備なる。たゞ残念ながら、重量と長さのため、殆んど使用出来ずそのまま保管されている。昭和三十六年永年使用した水ヶ浦海岸は大腸菌による汚染その他の理由により上浦海岸（日見海岸）に移転した。昭和三十九年東京オリンピックの際、芝ゴルフプールでの公開演技に出場。

昭和四十一年大分国体にも出場。

昭和四十二年鹿児島県指宿市瀧国海岸で公開演技を西日本新聞、指宿市観光協会共催により盛大に行う。

昭和四十三年、市予算大いに増額され、飛込台、築二箕新設、更に寄贈テント等により設備大いにととのう。

その他県内外の公開演技をしたる数は相当数になり益々向上の一途を辿りつゝある。

（以上の研究は志村弘先生に負うている。）

（昭和四十三年九月

臼杵山内流総務

臼杵市立北中学校勤務）